

1995年11月号

Enfanter ● No.213

あんふぁんて

Enfanterとはフランス語で

①子を産む②(計画などを)考え出す③(作品などを)創り出す、の意

○発行

深目
(22歳)

私自身によみがえりたい。

私は

やさしい関わりの中で

「あなた」たちとの

女の生をさらりと生き

出合いの予感

今私を包む

「あんふぁんて」……

原色の光を放つ女でありたい

明るい陽を浴び

暗くよどんだ部屋から出て

私はよみがえりたい

たくさんのあなたの中で

彼女の子のあなたと

私の子のあなたと



Enfanter 1975.8 創刊号

特集: あんふぁんてが生まれて20年
あの頃も今も 仲間を求めて… p2~

・20周年記念イベントのお知らせ p8
・新人コーナー p9
・あんふぁんてからあんふぁんてへ p10
・情報コーナー・事務局から p14

息子が今年から大学生、娘達も既に結婚した。昨年長女には子供が生まれ、子育てと仕事の両立を模索中のような。最近、あんふぁんてのメンバーになったと告げられて、私は感無量であった。どうか子育ての良い仲間めぐり合って、楽しみつつ大変な時期を乗り切ってほしいと願っている。

子ども同士は、このようだ
野仲 (十九才)
共同保育をされていた当時は、あま

外に連れ出したりと、週一・二回集まっていた子供達を遊ばせながら、子育てや女性の生き方等について話し合った。時には料理を持ち寄って、パーティー等も。

そのうち、子供達は親の姿がなくなると不安を感じなくなっていた。また、我家に集まる時は、娘達が小さい子供達の面倒を見てくれるので大いに助かったが、娘達にとっても良い経験だったと思っている。

その後、メンバーの引越等でも最初の形での共同保育は終わったが、残った仲間とはいつでも安心して子供を預けあえる仲間となった。そのうち父親同志が顔を合わせる機会が出来て、家族ぐるみのつき合いとなり、長い間四家族でクリスマス会や新年会、パーティー、バーベキュー等を開催しては、楽しんで来た。

さすがに最近では子供が大きくなり、それぞれに忙しく、全員が集まることはなくなった。近い将来、親だけのパーティーになりそうだといいながらも、この、遠い親戚よりはるかに親しいつき合いが続いていく事を確信している。

特集

あんふぁんてが生まれて20年



あの頃も今も 仲間を求めて...



私が子供の頃、母が「あんふぁんて」の共同保育に参加していて、預け合いで家の庭に子供が何人も遊んでいた。バーベキューやキャンプに行ったりして、とても楽しかった。

子育てがほぼ終わった今でも、母は共同保育の仲間と映画を観に行ったり、都心で会ったり楽しいおつき合いが続いています。

私も「あんふぁんて」で、一緒に楽しく子育てできる仲間に出会いたい！と思って入会したところだ。

右の文章は、来期アンケートの裏面に、新入会員の角谷「さん(習志野市)」が書いて下さったものです。「あんふぁんて」創設から二十年、ついにかつての「あんふぁんて」の子どもが親になり、二世会員として戻って来てくれたのです!! せっかくなので二十周年だから何かやりたい!と考えていた私たちに、このお便りは本当に嬉しいものでした。

そこで、今月と来月の二号にわたり、かつて「あんふぁんて」で活躍していた人たちの当時と現在を、そして、その子どもたちの今をさぐる特集を組むことにしました。

まず今月は、角谷さんのお母さん(千葉県内のグループで活動)と、預け合いかから自主保育へと進み今に至っている世田谷区の矢野さん(「ひろば」を作り、その後「新しい保育を考える会」をはじめた)の報告を中心に掲載し、来月号は今も続いている大田区グループにスポットを当ててみようと思っております。

りにも小さい時(一・三才)だったので、ほとんど記憶にない。が、その後も母達の行き来はあったので、小学生の頃など、家に来た小さな子ども達と遊んでやりたりしていた。

また、ホームパーティーで各家へ行き、高層マンションに蚊がいない事に驚いたり、旅行のおみやげで寝袋をもらってうれしかったことをおぼえている。

我家以外は皆、引越してしまっただが、今でも家族ぐるみのつき合いが続いていて、近い年令の親せきがいらない自分にとっては、子供同士はいい感じが続いている。

二十年前を振り返って思うこと
浦安市

今年私の娘は成人式を迎えました。私の友人が三十年近く前の成人式で着た着物をお借りして写真を撮りましたが感無量でした。私の成人式の日、色々な事情から家を人手に渡すことになった我が家は、引越しの真只中でした。今思うと、身も心も寒かった私の成人式でした。

そんな親の気持ちを覚えてか知らずか、同級生と会わなくてと、さささと着物を脱ぎ捨てて娘は出かけてしまいました。この娘の母となって、あつという間に二十年という星霜を歩みだしたのです。それまで独身時代を謳歌していた私は、結婚し、あつという間に母となり、それまで自由に飛び回り世の中の恐ろしさなど何も知らなかった自分が、ちょっと、いやや全く勝手が違うなと気付くのに時間はかかりませんでした。結婚して引越、出産で引越していた私に、周りに親しい人もあ

います。
共同保育・・・私の場合
(川崎)

今から二十年近く前の事である。

サラリーマンの妻で専業主婦、そして既に二人の娘を持つ三才の私に、三人目の子供が生まれる事になった。やっと娘達に手がからなくなつて、好きな事でも始めようと思つて矢先である。また親子で家に閉じ込められるのかと思うと、憂鬱にならざるを得なかった。

夫は、私が休日に子供を預けて遊びに行くなどでもってのほか、の会社人間。当然、子育てのストレスは大きく、心ならずも小さな娘達に八つ当たりすることもあった。

それ故、三人目は違つた子育てにしたい、子供と一緒に育てる仲間が欲しい、と切実に思つた。その頃、「子供からの自立」を読み、共同保育なるものを知った。

息子が生まれて十ヶ月になった頃に、市の広報に共同保育を一緒にやりませんかという呼びかけがあった。(あんふぁんて会員の石川さんが呼びかけ人だった)それに応えて集まった七人程のメンバーで、私達の共同保育は始まった。

私以外は、一・三才位の初めての子を持つ若い人が殆どで、たまたまその中の二人には保母の経験があった。親の都合を優先させるのではなく、子供本位の共同保育を目指して、最初はまずお互いをよく知り、慣れる事から始めようと、一年程は親子一緒にいろいろやってみた。

公民館を借りたり、各家をまわったり、野

りません。妊娠と同時に家庭で子ども達に英語を教え始めましたが、出産後一ヶ月で開始した時、そばで泣く子をあやしなから、時には抱っこしたままで、教えることにも育児にも心ここにあらずという状態でした。

丁度その頃、朝日新聞に有吉佐和子氏の「複合汚染」が連載されており、私は脳天を一撃されたようなショックをおぼえました。そして続いてやってきたのが第一次オイルショックでした。トイレレットペーパーも洗剤も店頭から消えてしまったのです。娘のオムツは水洗いだけで、洗剤を使うのをやめました。でもそれまで洗濯と洗剤というのは、切っても切り離せないものと思つていた私は、水洗いだけでオムツも衣類もかなりきれいになるとわかったことは、大きな発見でした。

そんな四面楚歌のような私は、「一緒に共同保育を始めませんか」という呼びかけに飛びつきました。そこで集まった人から「あんふぁんて」(フランス語で「産み出す」という意味)という耳慣れないグループを知り、会員となりました。しかし、グループが全てもうまわったわけではありませんでした。出来てはつづれ、つづれは出来る中、しかし新しい人達との出会いが一つ、また一つと、確実に増えていきました。そして、その仲間間になった友人の娘さんが母となり、「あんふぁんて」の会員になったことを知り、本当にうれしく思っています。

今は私達の時と違つて、講演会なども保育付きが多くなりました。紙オムツも普及して子育ての形態もずい分とかわつてきたようです。先日車椅子の友人を押して電車に乗った

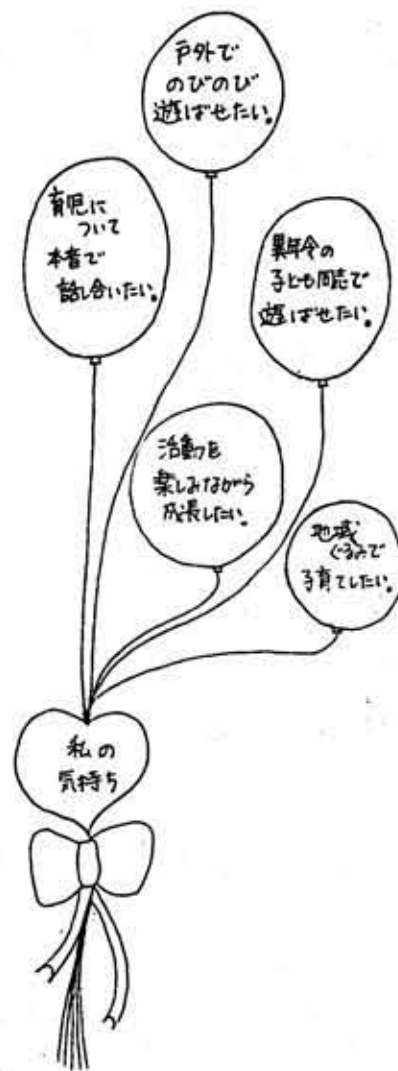
こと、子育てののびのびとした環境をつくるべく、区立の羽根木公園、梅林や畑が残っているのんびりとした公園で、「ひろば」の一日の進み方も緩やかで日常そのままだ。園庭にゴザを敷いて、お昼や昼寝や絵本の場所にしていました。そして何かあるごとにゴザの上に集まり、ゴザが会場場になりました。

この「ひろば」が二十二年間、場所も変わらずに続いています。ある年には三十組の親子がいたり、ある年には保育専従者として青年がいたり、年によって雰囲気は違いますが、いつもいつもがんなる親子たちがいて「ひろば」をつなげてきました。

「ひろば」の活動の特徴の一つに自主幼稚園と呼んでいる幼稚園クラスがあります。幼稚園は義務教育ではなく、行くも行かないも自由です。それなら「ひろば」で小学校まで育てよう、納得できるまで子どもとつきあってみようという親子たちがいて、このクラスが生まれました。今から十六年前です。このころから自主性を強調して自主保育と呼びあうようになりました。自分たちで考えた呼称だったのか、今ははっきりしませんが、外からきた呼称ではなく、自分たちでつくった名前でした。

子どもたちはお弁当や着替え、レインコートを着たリュックを背負い一日を当番の親たちと過ごします。これも公園が主の野外です。土や水や草や木を相手にしての外遊びの毎日です。私の二十才になる女の子も、この幼稚園の卒業です。

公の幼稚園に行かないで小学校まで自主保



育で過ごすから、私たちの自主保育は真剣です。だから二十二年間続いてきたのかもしれない。

子どもの遊びをどのように考えるか：当番の親は何をするか：万が一の事故や怪我にはどのように対処していくか：雨の日はどこで活動するか：などなど、考えることはたくさんあります。何かあるごとに話し合い、ひとつの問題で数日間かけて話し合うことも多くあります。必要な時には役所にも行きますし、夫たちが活動に参加していく策も練ります。また他の活動グループと連絡を取り合い、ネットワークを作り、遊び場づくりの運動などにも参加します。いずれも真剣です。いろいろな手応えや反応や収穫があります。始めは母親だけだったのに、気がついてから遊び場づくりの青年が関わっていたり、幼稚園

園を辞めてきた保夫がいたり、保育者志願の若い女性がいたりします。だからとてもおもしろい。たぶん、民間で親たちが運営する野外の幼稚園で、こんなに長く続いている活動は他にないと思います。今まで新聞やテレビや雑誌でもたくさんとりあげられました。

私たちは自主保育の本当のおもしろさと醍醐味をこの自主幼稚園活動で知りました。という、幼稚園に行かないで小学校に入ってから支障がないのかとみんなは心配します。今まで「ひろば」から五十五名近くの子どもたちが卒業しましたが、他の子どもたちとなんら変わりはありません。変わっていることがあるとしたら、かなり強い自主性を持っていることだと思います。

自主保育では遊びも身のまわりのことも自分が主体とならないと進んでいきません。な

ら、職員の人々がすぐ手伝ってくれて、色々なことが本当に楽になっていました。娘をバギーに乗せて、プラットホームで職員さんに怒られたこと、町中でバギーを押しながらすくそばを大型トラックが排気ガスをまき散らしながら走り、歩道には電柱がどかんと、バギーが通れないように立っていたこと等、これを書きながら走馬灯のように思い出しました。友人の娘さんより「すたれつ」がある共同保育」と伺いました。便利になった分、お金で解決できる分、わずらわしい人間関係は避けようということかもしれない。しかし、ちょっとだけ先輩として生意気なことを言わせてもらえば、この二十二年間、今思い出として残るのは、そのわずらわしさと健気に格闘した自分、悩み苦しんだ自分なのです。そしてそのことが自分を成長させてくれ、ちょっとだけ深く物事を考える自分になってくれたように思うのです。（今反抗期の子どもからは、軽薄な母と言われてはおりますが）登山だ、って、ロープウェイで五分で登ってしまうのと、つらい思いをして登頂した時とは、その喜びにも大きな違いがあるでしょう。

子育てって足を地につかりつけていないと出来ないことなのです。親になつたら最後、年々歳々、悩みは尽きず、その範囲は波紋のように広がって自分の手で処理出来る事から出来ない事へと移っていきます。が、つづり四つに組んで、しっかりとした人間関係を自分の周りで築き上げて下さい。しっかりと次の世代を育てあげていく以外、人間として大切なことは何も無いのかもしれない、今思うからです。

自主保育「ひろば」の活動をふり返って

私は渋谷と世田谷の会員たちに声をかけました。五、六人から連絡があり早速の顔合わせ。それまで一面識もなかった者同士ですが、会ってみれば、いずこも似たような状況。自分の時間をもちたい、将来にむけて勉強したい、古い夫婦制度に縛られないで夫婦対等の家庭をつくりたいなど、共通の思いがどんどん語られていきました。

そこで週一回、子づれで集まることを決めました。場所は個人宅の持ちまわり。お互いの家を訪問しあうことで距離も縮まるし、お昼やミルクの準備も安心できます。といつも都会の若い世代、広い家はありませんが二DKが普通。おしめをつけてヨチヨチしている子ども、泣いている子ども、ゴロゴロしている子どもと、大変な賑わいの中でのスタートです。今考えると、子どもをおぶったり抱いたりして特別な事が出来たわけではないのですが、その時間はとても元気で新鮮でした。家の中に閉籠もっていたならば、絶対に持てない時間でしたし、出会うことのない仲間たちでした。それに自分のことや夫のこと、義理の親のことなど、身近な事を飾らないで話せました。なによりも良かったのは、もう一度学校に行きたい、もう一度働きたい、と自分の将来を話せたこと。子育ての先の自分の姿がそこにはありました。

そんな時間の中からヨチヨチの子どもたちが他の親たちに馴れてきました。親の姿が無くても平気な子どももでてきて、子どもを置いての親の外出が可能になってきました。そ

自主保育という言葉は一般的に使われていますが、この言葉はどうやら「あんふぁんて」から出発したグループによって使われた言葉らしいのです。

二十年前、子持ち女が声をかけ合い地域で集まり、相互扶助で子どもを見合おうと動き始めた頃には自主保育という言葉はありませんでした。たしか「共同保育」とか「ヘルパ制による預けあい」とか言っていました。そうそう、その頃は、今は当たり前になっている託児付きの講座なども、とても貴重なものでした。なにしろ子どもを抱き、おしめでパンパンになった大きな袋をかかえて右往左往する私たちの姿が本当に物珍しい時で、隣近所の注目を集めました。女性の学習会や集会はあったのですが、いづれも子育てが終わった女性が主で、赤ちゃん連れの外出は特殊と見られ、デパートの保育室やトイレのベビーベッドの設置もまだの時代でした。そんな時代の中、といっても二十年前のことですが、子づれの女性にもいろいろな可能性が広がらないと地域の近い子持ち同士の仲間づくりが「あんふぁんて」で始まりました。

ここで子どもを預け預かりながらの共同保育的場づくりに発展させていくことにしました。仲間も「あんふぁんて」の会員だけでなく、世田谷の地域で暮らすことにしました。こうして世田谷の区報で呼びかけ、区立の公園でスタートしたのが「ひろば」この集まりは子どもの仲間づくりや遊びを大切にする

グループ名 対象年齢 活動日・場所 連絡先	① ひろば 1歳～就学前 火・金 羽根木公園アレイバ-7 中里	② てんとう虫 0歳～就学前 月・水・金 世田谷公園アレイバ-7 本藤	③ リトルインテア 0歳～就学前 火・木 世田谷公園アレイバ-7 江口
④ ベンベン草 0歳～就学前 火・金 駒沢公園アレイバ-7 荒井	⑤ 駒沢おいてま 1歳～就学前 火・金 駒沢公園 蔵本	⑥ 野毛風の子 0歳～就学前 火・金 多摩川・野毛地域 山中	⑦ リンゴはっぺ 0歳～就学前 火・木・土(土は月2回) 石公園・船橋南 高島
⑧ ロウニン? 1歳～就学前 火・金 石公園 大村	⑨ ライオン 1歳～就学前 火・金 荏花公園 小林	⑩ ワイワイ村 1歳～就学前 火・金 馬車公園 鈴木	(95.4)

子育て仲間を探している方
参加ご希望の方、
ぜひ一度、
お近くのグループに
連絡、見学してみ下さい。

小平グループ
小平市の中央公民館は保育室があり、この保育室を有効に使って、半数の人が子どもと係になり半数が自由という二交代制、複数担当制をレギュラーのヘルパー制にしていく。緊急のヘルパー制は、ヘルパーの条件をも明記した連絡網をつくり交渉する。その他、月一回公民館側がやってくれる託児を利用して全員で保育しながら話しをすること。9月11日(木)AM10時/12時、同じ所で会合。テーマは保育に際しての下調べなどを隣りの図書館などを利用してやること。そして、次の会合までに子どもについての連絡ノートを持参すること、連絡網をコピーし配布すること。

千葉グループ
7月28日に会員宅で4名参加の会合をやった。子ども達が寝ついた後、主に今までの自分のことやイメージしていることなどを話し合い、人間的なつながりの第一歩となった。8月13日、千葉といってもとても広く、子連れでは大変だが月一回位の定例会程度なら可能なので気長に続けていこう。と同時に、距離的に近い人を「あんふぁんて」の仲間と呼びかけて、明日からでも預け合いをすすめていこう。この二本立てですすめていこう。もし、適当な場所があったら週一、二回位互いに交代で保育していくという共同保育を行ってみたいと考えている。

「あんふぁんて」
二十年前の会報より

(一九七五年九月)

二十年前の会報でも「預け合」がかなり大きな課題になっていた。おとなだけで、時間を有効に使って活動したい、という願いは今も同じです。一方、子どもを預け合い、又、保育しながらの学習会やお茶飲み会などから「自主保育」そして「自主幼稚園」へと発展させた方々のお話、とても考えさせられる内容でした。すごいパワーを感じます。

ご多忙中、こころよく原稿を寄せて下さいました矢郷さん、石川さん、野仲さん、さん、心からお礼申し上げます。
(佐倉市)



「料理を作る日」など、おおまかにしか決まっていなくて、手とり足とりして細かい動きをリードしてくれる人などいないからです。そういう場で過ごす、自分の気持ちが大切になります。なんとなくそこにいるだけでは子どもといえども、その時間を本当には楽しめないのです。

自主幼稚園を始める時、私たちが目標としたことに、この「自主性」があります。「自主性」ってとても難しい言葉で一言では説明できにくいけれど「自分の人生を既成の形や人の評価にとらわれないで、自分の心に従って選択できる自立性」と考えています。これは女はこうあるべき、夫婦はこうあるべき、子どもはこうあるべき、と見えないところで形がいっぱいある日本では、とても難しいことです。気がつかないで、自主性を放棄している。人と同じであることに安心して、本当の自分の居心地の良さを深く考えないで過ごしてたりします。でも対等な夫婦関係や男女関係、親子の関係を考えていくと、どうしてもこの「自主性」をひとりひとりが学習していくことができないと思ってしまうのです。それにはただ人が集まる場ということだけでなく、自分たちのルールや約束事を自分たちの動きに即してつくりあげ、その過程を通して自分自身や他人と向かい合う、そんなことが必要で大切と考えました。だから「ひろば」は今も、自主保育に拘っているのです。

(新しい保育を考える会代表)



雪の日、野外のたき火で豚汁をつくる
当番のお母さんと子どもたち

「ひろば」——通信より——
自主保育では、かっちりとしたプログラムのなかで、というよりも、テーマや素材を与えたうえで子どもたちが自主的に、好きなように遊びを創造し、発展させていくことを重視しています。また、子どもが卒会しても交流・協力が続いています。

「ひろば」から巣立った「ひろばっこ」
「子どもたちのこゝと・ば」 90年1月の抜粋

A 「ひろば」にいた時のことをおぼえてる？
皆おぼえてる——
B プールで泳いだこととか……
C いっしょに合宿行ったこととか…… 東京のはずれの秋川の小さな山小屋。
D 星とか見たよ。私、ゆで卵の殻がとれなかった……

A 「ひろば」から小学校に行き、他の幼稚園の子とも一緒に遊んだよね。その時、私とどこか違うな！と感じなかった？
B みんなが書いた。
C みんなハンカチ持ってた。(笑)
E 「ひろば」ってどんなところ？ってきかれて……遊ぶとこ……

B 寒い中、しじみ採ってみそ汁を作ったね。
C お弁当に雪を詰めて壊れたボロ家に行った。あれは山中湖だ。(略)

B お母さん方が、子どもが入学する前に、塾とかにやるでしよう。心配で普通の幼稚園に行かせたり。そういうの、やめて欲しい。
C 野生的がいいじゃない？
D 何、その野生的って？
E 花の名前いっぱい知ってるとか……
F 体育が5とか、競争ができるとか？
G 枯れ葉の中でごはん食べるとか？
A 不自然よね。いい学校行くために幼稚園行くとか。いい幼稚園に行くために何分バズルができるとか。

C めげないで「ひろば」を続けてほしい。

あんふぁんて20周年記念イベント

「こころのインターネット

キーワードはコミュニケーション」

時間	メインイベント	託児イベント
11:00	☆バザーOPEN ◇お抹茶と琴の生演奏 ◇グループ交流会ブースOPEN	☆ 託児定員 ◎乳児.....20名 ◎幼児.....30名 ◎児童.....50名 (定員になり次第 締め切ります。)
12:00 12:30	◇お抹茶と琴の生演奏	
1:00	◇講談による 「あんふぁんて20年の歩み」 講師 神田和子	託児イベント開始 ◆NACL「ヒーローショー」 (仮父さん連によるヒーロー・アクションショー)
1:30 2:15	◇講演 矢郷恵子氏 「グループ作りの 大変さ面白さ」	◆工作教室 (古切手を使ってコースターや壁掛け作り) ◆みんなで作ろう ・タコ焼き ・ポップコーン
2:30 3:15	◇お抹茶と琴の生演奏 ◇ワークショップ 藍谷千夏 「体験しよう!コミュニケーション」 ◇クラシック小作品演奏	
3:30	◇講演 毛利子来氏 「子育て中のあなたへ」	◆NACL「ヒーロー・ショー」
4:30	閉会のあいさつ 古知陽子	
5:30	片付け終了	
6:00	打ち上げ(おつかれさまでした、みんなで楽しくくぐらうさん、乾杯!)	

★日時 11月23日(木・祝日)

★場所 東京池袋教会(池袋駅西口徒歩10分)

★参加料

◎会員 大人 800円
こども 400円(0才~)◎非会員 大人 1000円
こども 500円(0才~)※会場内ドリンク・スナック付
(大人もこどもも)申し込みは11/14まで、事務局へ
電話連絡の上、料金郵便振り込み
をお願いします。

★イベント内容

◎講演 矢郷恵子氏
(新しい保育を考える会代表)・こどもの自主性を大切に
自然の中での自主保育や自主
幼稚園活動の体験から感じた
こと。◎講演 毛利子来氏
(小児科医)小児科の診察室で日々接する
子育てに一人で奮闘する若い
お母さんたちへのメッセージ。

あんふぁんてって何? 子育てって? 自立って?
コミュニケーションって? 夫婦って? 家族って?
仕事って? 何? 何? 何?.....わたしって一体何?
たくさんのクエスチョンがあるけど、ここに来て一緒に
考えてみませんか。
あなたが一歩踏み出したとき、あなたもあなたの周り
も変わる。このイベントがそのきっかけになればいい。
みんな、みんな
おいでよ、待ってるよ!!

新人コーナー

とりあげたいのは、母親の時間の使い方。
みなさん一日をどう過ごしていますか? 単
に育児、家事で終わるのはいらないです
よね。私は今、通信教育をはじめました。
夫が海外留学のため二年間ほとんど別居状
態。その間、私は実家にいましたが、いろ
ろあって、子どもはできたものの、夫婦関係
、出産。そして再び夫と暮らしはじめましたが
、不安神経症に。今は少しよくなりましたが
、不眠症はまだまだ。同じような症状の方と連
絡をとりたいです。

とりあげたいテーマは、人付き合いの難し
さ、ブラス、マイナスについて。
学生や独身の頃って、人間関係について選
べる部分ってありましたよね。イヤな人と
は口きかなくてもあまり問題ってなかったと
思うし、気まずくなっても自分一人だけで
すんだけど、子どもがいるとそうはいかない
イヤなヤツともテキトーに言葉かわさない
いけないし.....うっとうしくてがまんしな
くちや子どもに影響がでても困るし.....み

◎入会半年くらいの会員に送る自己紹介ハガキアンケートからのお便りです。なお、リア
ルタイムの掲載につとめていますが、誌面づくりの関係上かなわないことがある点、お許
しを。でも、100%掲載をめざしますので、気長におつきあいください。また、これ
からの方、自己PRも大歓迎。ふるってお便りください。【編集担当 杉山】◎

なさんのご意見やうまくやっていくコツだ
か、失敗談、不満を特集してほしい。
ところで、入会してほんとうによかった。
会報や交流会、月一回原稿を書く「いずみ」
の会などで、たくさんの方々の考え、意見
が聞け、また自分自身のことも考えるこ
とが多くなり、よりよく自分のために充実
して生きていることに実感しています。

どの図書館でもお話しが行われていますが
、本離れの今、参加する人も少ないみたい。
それはやはり幼児からの読み聞かせの体験が少
なかったのかもしれない。もっと、もっと
、素敵なお話を聞かせてあげたいし、夢、与
てあげられたらと思います。それには語り手
が魅力的になれるよう勉強する必要があります。
そこで、私といっしょに学んでくださる人いま
せんか? ペープサートやパネルシアター、
エプロンシアター、人形劇、素話といろんな
語り方があります。でも、どうやって学ぶか
.....この第一歩を悩んでいるのが事実です。
先に活動されている方、教えてください。

昨日と同じ生活を送りたくない。二歳五カ
月の男の子と十ヶ月の女の子をもつ私です。
長い不妊時代を経て、やっと恵まれた二人の
子ども。これで一人前の女に見られる? 子
どものお話でこれまでにない自分の人生がは
じまるぞと思ったのも束の間。なんと単純な
毎日だろう。たまにベビーカーなしで下の子
をおんぶして外に出ると、歩かないと座りこ
む長男。子連れで行動することがこんなにも
大変だったとは.....。だったら今の私にでき
ることといえば自分の思いを書くこと。それ
を活字にしてください。所があるなんてすば
らしいこと。よろしく願います。

来春長男の五歳が幼稚園に入園。私はただ
ばくせんと近くの幼稚園へ.....と考えていま
したが、まわりのお母様たちから選べるなら
見てまわって選んだ方がよいといわれ、そ
ういうものかな? と多少のんきな考えが
はじめました。幼稚園。あなたは何を基準
に選びましたか? 聞かせてください。
「あんふぁんて」はレベルの高いサークルだ
と思えます。今のところ読むだけです。共
感できることばかり。自分と同じ考えの方が
いるというだけでも自信がわいてきます。

募集

イベントバザー用品の寄付と11/20のバザー準備手伝い

(イベント予算が少ないので売上金を講師の謝礼やその他のイベント経費に当てたいと思います。寄付又は準備手伝い希望の方は下記まで問い合わせを)

保育所に通いだした娘(二才)は、三ヶ月が過ぎすっかり慣れました。朝、私と離れていく時は少し淋しそうですが、夕方迎えに行くと、なかなか帰ろうとしません。もともと私の強い子で、家では私を手こずらせてば

保育所に思うこと(2)

大阪市

親子だけで出かけるのとは違って、友人との外出はとても楽しかったです(何しろ初めての体験)。気の合う話のわかる友と出かけるのってこんなに楽しかったのかと、あらためて気づきました。今まで、育児に悩んだり、ストレスに疲れたり、楽しいことってなかった気がします。これからは自分自身で楽しいこと、やりたいことをドンドン実行しよう！家にいるより外へ出よう、と決心しました。体を動かしていると、悩みは軽くなっていくような気がします。

ました。休憩場所もたくさんあるし、ここの雨の休日に一日いてもあきないでしょう。こんな場所は、残念ながら私の住む埼玉(日南市に限っては)にはありません。地域によって、こういう施設のある所、ない所、さまざまですが、やはり大きな都市はそれなりに予算もあって、うらやましい場所でした。でも私の地域には、自然だけはいっぱいあって、子どもにとっては良い環境なのです。大人にはいささかあきが出て、たまには刺激を求めて都会へ！という気持ちにもなってしまうのですが。

かりいですが、保育さんの前でもやつとこの頃、自分の気持ちを表せるようになってきました。

予想通り始めの一カ月は熱をだしたり、夜泣き、異常なほどの甘え、グズリ、いろいろなありました。でも初日から大泣きして保育さんを手こずらせるかな？と思っていたら、大間違い！離れる時には泣いても、母という一番の味方(?)がいなくなれば、けつこう気を使うようで、保育さんの呼びかけに「ハイ」といういいお返事。お昼寝の時も手がからず、まるで別人。

でもその反動で、帰宅してからグズるし、まとわりつくし、発熱するし。入所直前に麻疹にかかって体力が落ちていたせい、四月は十一日の予定が七日しか通えませんでした。その頃は研修中でどうにか対応できましたが、まともに通えだしたのは、六月になってからです。個人差・年齢差もあるでしょうが、子どもが保育所に慣れるまでしばらく時間がかかりました。

幸い、お世話になっている保育所は総合福祉施設内にあり、隣の病院内では昨年より病児保育所も開設されているので心強いのですが(まだ補助金を得るための許可は受けられずにいるようです)。そういう施設が無い地域では、子どもが病気の時にどうされているのでしょうか。子どもが小さいうちは、預けること以上に、病気の時にどうするのか、働き続けようとする女性の足かせになるようです。

まわりからの「子どもが病気の時もそばにいてやれないなんて母親らしくない」という

プレッシャーもあります。父親なら、子どもが病気で仕事に出て当然という風潮が強いのに、どうして子どもが病気の時は母親なんでしょう？働きだした途端、「子どもの熱が出た」としよつちゅう休むようでは、信頼問題にも関わってきます。もちろん、家族に病人が出て仕事も休みにくいことの方に、日本人の働きすぎや弱者切り捨ての問題があるようにも思います。

私は保育所への認識が足りず、信頼の置ける保育者に子どもを任せられる気持ちになれず、二年かかりました。昨年五月に十回の保育付きセミナーを受けた時は、慣れない場で、初めて母親と離れて泣く娘の声を聞いて、「私は育児以上の何をしようとしているのだろう？」と自問の念に駆られました。が、セミナー主催者や保育者に支えられ、そんな母性神経からも開放され、どれほど気分が楽になったことでしょう！

娘が保育所に通いだしたことは、アツという間に公園友達に知れ渡りましたが、特に非難めいたことは言われず、むしろ「チャンスがあれば自分も利用したい」気持ちの人が多いうようです。お互い心を開ききれていない公

あんふあんては、子育て真っ最中の人から、子どもが大きくなって、そろそろ自分のことを見つめようとしている人などいろいろな人がいます。そんないろいろな人の声を集めて...

あんふあんて から あんふあんて へ



私も活動、始めました

大里郡

上の子と初めて公園デビューした時に、味わった疎外感。今でもはつきりと覚えています。私だけよそ者みたいに見えていた目。あれから一年半。公園にすっかりとけこみ皆と仲良しになり、新しく公園に来るお母さんにも、私から積極的に声をかけていっています。

その公園のお母さん達と、毎週金曜の午前十時〜十二時まで町の公民館をかりて楽しく

やっています。何をやるというでもないのだけれど、雨の日や暑い日に遊ぶ場所がほしい、そう思ってみていたら、公民館がありました。七十畳の和室で皆が持ち寄ったおもちゃで、思い思いに遊んでいます。月に一回、大きな公園にお弁当持参で行ったり、毎回楽しくワイワイやっています。皆「こんなに仲良くやれるなんて思っていなかった」そうだけれど、〇〇ちゃんママから卒業できた私達。今、親子ともに二十五名前後。皆仲良しになりました。一年半前、私が味わった疎外感を誰にも味わってほしくなくて、私なりに一生懸命やった結果です。

(その後のお便りです)

夏の暑い間だけでも遊ぶ場所があればいい、町の公民館をかりて、最初の二回は大人が十人、子ども十五人前後という人が集まり、盛り上がりつつありました。暑い時は車に乗るのもおっくうになるわけで、しだいに足も遠のいて母子共々十人前後になりました。

ただ集まって、親同志コミュニケーションをとるだけでも、私は楽しいと思っていたけれど、それだけじゃ物足りない人もいたようで...。人をまとめていくのってむずかしい。週一回、その日は他の用事を入れないようにしている自分。なのに他の人は友達と逢うとか、いろいろ出かけてたりしているのを見聞きすると、何となく淋しく思う。そこへ行かないといけないわけじゃないけれど、決して強制じゃないのだけれど...。私には責任がかかるのもイヤだなんて思ってしまった。私は出かけるのが好きだから、病気でもし

ない限り、毎回公民館へ行く。しかし、だれも来てくれなかったりしたら淋しいし、家にいたのに来てくれなかったりしたら、もっと淋しい。自分が楽しみたいから計画してみたけれど、やっぱり自然消滅かな。やっぱりむずかしい。公園で知り合ったお母さん達、皆どんなことを考えているんだろうか。何人かの人は名前前で呼びあえるようになって、意志疎通もはかれるようになった。皆をまとめようなんて考えるから負担になるんだよね。もうすぐ秋になるから、そうしたら公園でまた楽しく遊べるようになる。この夏、私はいい経験をさせてもらった、そう思うことにします。少しめげたけれど、またこりずに計画すると思おうのです。楽しい育児期を過ごすために、まわりの人の「楽しい」という声が聞けるうちは...。下の子ももう一才。時間は少ないな...って気がします。

楽しいこと、みつけた！

日南市

あんふあんてで知り合った友人と、子連れで、渋谷にある東京都児童会館に行ってみました。

地下一階、地上五階の大きな建物には、子どものためのプレイルームのようなものから小学生が十分楽しめる工作教室。好きな楽器を好きなように使える音楽の部屋。ミニシアターもあるし、もちろん図書館も。もういろいろあって、楽しくて親の私もすっかり遊び

した。入園してからの私のパートだって、他の親から「お金入っていいわね」と興味を言われたくないので、内容については伏せているし（資格職なので割りがいい）、春休み期間は、子どもの預け先をどうしようかと悩んでいた時に、子どもの同級生のお母さんで下がっている人に、「幼稚園に行っちゃったら暇でしょう」といわれた時には、家に帰ってから「大変なら次の子つくるな」と怒鳴ってしまいました。

私自身、専業主婦のへ茶飲みと噂話ばかりではないのですが、私の人生は子どもだけじゃないといった時に、じゃあ仕事でも探せばというの、とても短絡的だと思います。仕事もなくて、子どもも巣立って、それでも自分は自分だというのが、これから人間の生き方として問われていくんじゃないでしょうか。

昔読んだ本の中に「女は遅れてきた男ではない」という言葉があって、自分らしく生きることは大切だ、と思いました。仕事も社会活動も子どもも、どれも第一のものか、定めなくてもいいんじゃないかな、なんて考えています。すべてを含めて自分をつくっていくのだと思います。

五月号の四ページの下の段の「それはきつと仕事に拘束されたい、と思っているんですね。」という発言は、もつともだと思いません。結局、それは女が男の「生産性」の価値観に縛りつけられているだけではないか、定額す「子どもが減ることはある程度諦めるから、日本の経済力が衰えないように」とりあえず働いてよ。」というの、ある意味で

は軍国主義時代（および、つい最近）の「産めよ増やせよ」に通じる政治的圧力だといつたら言い過ぎでしょうか？

日本人の戦争責任とは
熱海市

「チエルノブイリ」のコラムを、興味深く読んでいます。原発の抱える問題は、私もいくつか「何とかしなくちゃ」などと（安全性等）思ってはみましたが、反面、原発による電力がこれほど普及しては、どうにもならない「あきらめ感」も感じています。

これだけ電力に頼った社会がうまく節電できるとは思えないし、代替エネルギーはどうするのかなど、現実の壁は大きいでしょう。この夏、クーラーを使わなかったお宅はありますか？他にも冷蔵庫、電灯など電力なしの生活はとも無理。（ちなみにウチは海に近い場所柄を生かして、去年も今年もクーラー未使用。誰かほめて！）。必要悪という言葉があるけれど、原発もそうしたモノかもしれないですね。

ところで、コラム58の文中、日本の戦争責任について少しふれられています。理屈としてはわかるし、私も正式に日本国が謝罪することに賛同するけれど、感情としてはごく悩みます。大多数の日本人は、ただ流された無知な非力な者たちで、国内でも当然厳しい統制を強いられていたわけで、きつと、今「謝まれ」といわれても納得できない人もいると思うのです。



園友達、何気ない顔はしていても、孤独な子育てに結構ウンザリしているのでしょう。いま、共同保育と保育所便覧作りに興味をもっています。共同保育については、保育について私よりキャリアのあるパートナーが、便覧作りには、大阪市各区にお一人ずつ位は強力なパワーをもつメンバーが揃えば実現する？単なる住所等の羅列ではなく、直接取材に何ってその園の特徴なども伝えられる内容にしたいです。でもそれって、園に対しては失礼なことかも？と思ったり、失礼と思うことこそ「福祉については行政におまかせ」の受け身の発想が自分の中に潜んでいるから？

いずれにしても「実際に子育てしている私たちにとってはこんな保育の場が必要ですよ」と、行政側に声を上げていくべきだと考えています。自分達の今を乗りこえただけの育児サークルのノリではなく、自分達も政治に参加して、「子育ても仕事も楽しめる福祉の充実した社会づくり」を目指して手をたたきませんか？「少子化政策」「子育て支援策」と打ち出されても、余りにも一方的すぎてどこかで違和感を感じてしまっているのは、私だけでしょうか？政治家が育児もすれば、もつと世の中変わるでしょうね！

自分らしく生きたい
匿名希望

あんふぁんての五月号をみて、何となく嫌な思いをしました。私は去年からパートに出ています。週・二週一で子どもの幼稚園にさしそわりのないようになっています（たまには、おばあちゃんの話になるけれど）。子どもは幼稚園の年中です。

男達の「生産性」もしくは「経済発展」の神

話は、「子産み」から「共働き」に移りつつあるだけで、価値のある母親というの、母親自身がフルタイムで働くか、次ぎなる働き手（つまり子ども）を生み出すか、であって男達の価値観で自分の充電期間を考えていると、肩身の狭い思いがします。

幼稚園に入れた私としては、幼稚園に子どもを入れておいてという苦労もある。入れる前だって、ひとりこが三才になったというところで、「まだ働かないの」「次ぎをつくらないうの」のどちらかを口うるさく言われてきま

うた
三鷹市

CDを買ってもらった
ずっと好きだったアーティストの
新しいアルバム
お茶わんを洗っている私の前に
ホラとジャケッットをみせた
夫の方がうれしそう願
とても昔、十年よりもつと昔
やはりこの歌手のアルバムを誰かに
買ってもらうことがあった
発売日を待ちかねていたような
買ってやるよと言われていたような

「サーチ・ライト」という曲を聞いて泣いた
帰ってすぐにレコードをかけた
涙があふれてきた
泣いている時に電話がなった
すれ違った気持ちのままレコードを抱いて
走って帰って来たのは
あれは秋だったろうか 今のうちに
電話の向こうの声
なつかしいけれど冷たい声だったような
気がする
人と別れて
人と出会って
「サーチ・ライト」という歌を聞く時は
今でも少しだけ かなしい
何かを探していた 私の姿がみえる
ひとり泣いたり していたんだね

情報コーナー

★「ひとりっくらぶ」メンバー募集

「ひとりっくらぶ」について、世の中ではきびしい意見の多い中、様々な角度から皆で考えてみませんか。お母さんがひとりっくらぶの人、子どもをひとりっくらぶにするか悩んでいる人、ひとりっくらぶについて意見のある人、連絡下さい。活動内容は主に会報にしたいと思います。

★「あんふぁんて」連絡窓口変更

グループが活動してから半年、定例会の日取り・場所（婦人教育会館）や託児を月毎の担当者が責任をもって進行していくという形式も定着し、なんとか軌道に乗ったかなという段階です。超バワフルな森田さん西岡さんの転動は痛いですが、テーマを決めて話し合ったりピクニックや飲み会なんかしちゃったりして、本音の言える仲間として結束していきたいです。今後の定例会予定は、11月7日（火）と12月5日（火）。新代表は半澤薫。

★平日あんふぁんて・今回は東葛あんふぁんて定例会に合流します

11月11日（出） 10時 ゆうまつど研修室にて（松戸駅西口徒歩2分）
改修したゆうまつど（松戸市女性センター）で、ゆっくりおしゃべりしませんか。申込は11月10日（金）2時までに事務局へ。

★第二回ティールブレイク・イン・横浜

横浜市内の方に限らず、お出かけ下さい。
11月14日（火） 午前10時から12時
横浜女性フォーラム和室（戸塚駅下車）
当日はお茶と子ども用おやつを用意します。
10月号に「7日」となっていました。変更になりました。問合せ・申込は宇佐美まで。

★大阪発関西メンバー定例会

あんふぁんてに入会して約一年。九月に初めて交流会に参加しました。まず、会話のレベルの違いにオドロキ！皆同じような年頃の子どものいるにもかかわらず、子どもについて話の話し方、自分の会話が楽しめそうに集まっています。まだ参加されていない方、思い切って来てみて！交流会しばらく行っていないという方も、ぜひお会いしてみたいです。
11月10日（金） 天王寺公園内噴水前 11時集合（井当・水筒・おやつ・シート持参）
12月7日（火） ドーンセンター4階 小会議室 10時集合（京阪地下鉄谷町線天満橋下車）
クリスマス会のため一品持ち寄りです。
保育付き（要予約）。詳細は古賀まで。

★名古屋での講演会いよいよ実現！

来期アンケイトに書いた私の計画が、動きだしました。
11月18日（出） 10時/12時 会費500円
テーマ・「三才児神話を打破しよう！」
講師・中島美幸さん（フェミニスト誌編集者）
場所は名古屋市内女性会館。名古屋近辺で興味のある方は、ぜひご出席下さい。託児0才から。当日の手伝いスタッフも募集中。連絡は村瀬まで。

★カウンセリング・ワークのメンバー募集

月一回日曜日に、フェミニスト・セラピー「結」の鶴貝真由美さんの指導のもと、約二時間フェミニスト・カウンセリングのグループ・ワークを行っています。自分をもっと深く知りたい方、人とのかわりを通して自分を成長させたい方、ぜひ一緒にやってみませんか。ハガキかFAXでご連絡下さい。折返し詳細をお知らせします。

★「はじめのいっぽの会」一日簡単レザークラフト教室のお知らせ

タペスタリー（壁掛け型）のクリスマスカード（オーナメント）を掛けるところが23個ついています。12月になったら、作り付けのポケットから一日に一つずつオーナメントを出して、クリスマスをお待ちのも楽しいです。誰でもでき、一日で仕上がりです。都合のよい場所と日時を選んでください。
11月14日・20日：海老名市わかば会館（Pあり・小田急線厚木駅下車徒歩10分）
11月17日・12月1日：横浜市内東戸塚地区センター（予定）（JR東戸塚駅下車徒歩10分）
参加費：2600円（材料費込み）
持ち物：カッター、古布、万能はさみ（キッチンハサミ）、ボールペン、先の尖ったもの、あればカッターボード（粘土板）
保育あり：一人800円（おやつ代込み）
一才以上（一才以下の場合はおんぶで参加）
申込・ハガキか電話（朝と夕方のみ）で。

★「WEDO」にあなたの意見も聞かせて！

五月号の特集「仕事と生き方について」の編集作業をきっかけに始まった「女性と仕事研究会」は「WEDO」という本名を得て、毎月一回の紙上意見交流会を楽しんでいます。誰に強制されるわけでもなく（親切日まで）に集まった原稿をメンバー人数分コピーして返送する方法です。自発的に毎月一回は自分の思いを言葉にして提出する、という作業は大変地味ですが、他の人の状況や考えを知ったり、「それは何故？」という問いかけが返ってくることは、自分の内面を見つめるきっかけとなり、ただ一人でモモンと「仕事したい、でも、〇〇でダメ〇〇でダメ」と堂々巡りしているよりは、一歩でも二歩でも前に進めるのではないかと考えています。女性の就業状況は、新卒でも大変厳しい昨今です。ましてや、幼い子どもを抱えた女性に至っては、もっと厳しいものがあるようです。日本は何故こんなにも「産む性」をないがしろにする国なんなのでしょう。結婚しても、出産しても、社会参加できる社会（福祉施設などの環境や人の意識）になれば、もっと出生率も上がるのでは？と私は考えています。あなたは「女性と仕事、そして生き方」について、どんな意見をお持ちですか？

★★各地の情報をまとめています。編集・印刷の都合があるので、原稿は発送の一ヶ月以上前までに事務局へ送って下さい。★★★

★アディクション・ママ・ネットワーク

私自身も同じ問題を抱えているということから、アディクション問題を抱える人の自助グループを作りました。子どもがいて孤立しているあなた。親になってもアダルト・チャイルドなあなた。ビョーキな子どもを抱えてパニックしているあなた。子どもの世代にまで自分の心の傷を持ち越したくないあなた。そして、私たちと共感してくれる全ての仲間へ。互いに支え合う会報を出しませんか。興味のある人は、80円切手2枚同封の上連絡ください。やりたいことの希望も書いてもらえるとうれしいです。（市川市）

★未来からの「やめて！」という命の声が

聴こえませんか？4（命を大切に）する社会のあり方を考える。
11月25日（出） 午のZERO小ホールにて
昼の部：1時半/3時 小・中学生対象の環境講座と合唱団による「日向葵の歌」など
夜の部：4時/7時 薬害エイズの被害者の母や原発内の被爆労働者の家族を迎えて同時に広河隆一・樋口健二写真展も。入場料各回500円（中学生以下無料）。問合せは島さんまで。

★大阪からだとこころの出会いの会東京公演

「愛の侵略者」マザーテレサとシスターたち
12月3日（出） 吉祥寺の前進座劇場にて
昼：1時/夜：3時半
当日券4000円（前売り券3500円）（宮前まで）

事務局から

●あんふぁんては今年3月で発足から二十年が過ぎました。今回の特集に登場した角谷さんだけでなく、記念イベントで子ども向けショーをやってくれた神田君は、初期からのメンバーの息子さんで近くパパになる予定。かつてあんふぁんてで育った彼女らが、どんな親になるのか楽しみです。
●十月末の会員数は665人でした。

へスケジュールメモ

11月10日（出） 20周年イベント前夜祭
午後6時/大人の会（神楽坂・幾代宅）
持込み歓迎。会費実費。新人も懐かしい人も一緒に盛り上がりましょう。当日参加できない方はぜひこちらへ！
11月20日（出） イベント直前ミーティング
10時半/子連れ可・井持参（井上宅）
11月23日（出） 20周年記念イベント（池袋）
★12月号の会報発送作業は、千葉あんふぁんてのメンバーが担当する予定。千葉市近辺で手伝える方は連絡ください。また、切手貼りや発送の作業をグループで担当できる所を募集します。何月頃できるか連絡ください。

●あんふぁんては会員の会費のみで運営しています。会費の振込がまだの方は至急振込をお願いします。会費が切れても本人からの連絡がない限り退会などの措置はとれません。退会・休会・転居等の場合必ず連絡下さい。

覚えていますか？ チェルノブイリの原発事故を！ <その60>

後藤レポート No1

原子力発電所は、ウランをゆっくりと核分裂させてできた熱でお湯を沸かし、その時にできる水蒸気でタービンを回して電気を作っています。核分裂とはあの原爆に使われた方法で、政府や大手電力会社は「核の平和利用」として原発を推進していますが、本当に平和で安全なものなのでしょうか？

否！ と原発被爆労働者救済センター代表の平井憲夫さんは言います。平井さんは、福島、浜岡（静岡県）、東海（茨城県）、敦賀（福井県）など沸騰水型原発の現場で20年近く配管工事の監督として携わった経験があります。

お話によれば、現在原発の現場作業には職人がほとんどいなくなり、全くの素人を経験不問という形で募集しているとのこと。原発は放射能を内部にも外部にも出しており、体内に蓄積されればガンや白血病の原因となるのに、作業員は危険性を知らされずに仕事に従事し、また素人のため事故は多発しています。

平井さんが救済センターを設立したのは原発労働者や周辺の住民が被爆して病気になるという事実を目の当たりにし、何とかしなければとの気持ちからです。

現在、原子力発電所建設の賛否をめぐって揺れている新潟県巻町。十月半ばの住民投票は延期されました。平井さんはこの巻町でも講演を行いました。同じ新潟県に住む主婦、伝（でん）美奈子さんは反対派の人に署名を求められたのがきっかけで「自分にできること」を探しつつ、住民投票の実現に向けてお手伝いをしています。平井さんの講演内容を聞き、そこに生きる人々の健康と幸せを思ったとき、原発はいらないという結論に至りました。

「どうか折ってください。そして自分にできることから始めてください」と伝さんは東京に向けて発信しています。

ナガサキ、ヒロシマという固有名詞をもつ被爆国が国内で「平和」を唱えながら被爆者を増やし続ける矛盾に皆さんも気づかれたでしょうか？

今回から何回かにわけ大田区の後藤さんからのレポート「新潟県巻町の原子力発電所建設をめぐる問題」を紹介します。また、ここを皆さんと核問題に対する意見交換の場としていきたいので、お便りもお待ちしています。

☆新事務局までの地図☆

☆当会について詳細を知りたい場合、封書に〒・住所・氏名・会費を明記し、切手400円分（なるべく少額切手）を送って下さい。入会希望の場合はなるべく会費六ヶ月分（三千円）以上まとめて、郵便局の振替口座に払い込んで下さい。

第213号（毎月1回5日発行）
1995年11月5日発行
（1975年7月26日初刊発行）

あんふぁんて 11月号

発行人 /
発行所 / あんふぁんて出版部

電話 /
（12時～2時受付）

定価 / 500円
振替口座 /
加入者名 / あんふぁんての会